

第 I 章

調査概要と

目黒区の概要

I - 1	
調査の概要	3

I - 2	
目黒区の概要	7

I-1 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、目黒区みどりの条例に基づき定期的実施する区内のみどりの実態に関する調査であり、1972（昭和47）年度、1977（昭和52）年度、1985（昭和60）年度、1992（平成4）年度調査、2004（平成16）年度調査、2014（平成26）年度調査に引き続いて行う第7回目の調査となる。

区内のみどりの実態を把握し、みどりの環境の推移を解析するとともに、今後、目黒区基本構想・基本計画におけるまちづくりの方向である「さくら咲き 心地よいまち ずっとめぐろ」の実現を目指した*¹目黒区みどりの基本計画及び*²生物多様性地域戦略の改定等、緑化施策を推進する上での基礎資料とするために実施したものである。

2. 調査の対象

調査対象は、目黒区全域 1,467ha である。区では生活圏域に応じ、区内に 22 住区（おおむね小学校通学区域）、5 地区（4 ないし 5 住区のまとまり）、全区の 3 つの圏域を定めている。

本調査ではこれらの生活圏域区分の他に、町丁目区分、用途地域区分、土地利用区分等を各調査項目の集計単位として用いた（I-2 「3. コミュニティの単位」参照）。

3. 調査期間

2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月15日

4. 調査の項目

調査は、表 I-1-1 に示すとおり 18 項目について実施した。

*¹ 目黒区みどりの基本計画：資料編 P.165 用語集(1)参照

*² 生物多様性地域戦略：資料編 P.165 用語集(2)参照

表I-1-1 調査項目等の概要

調査項目		調査方法	調査内容	調査基準	
概要	①	基礎調査	既存資料に基づく調査	目黒区の概要	目黒区の沿革、自然・動植物・社会環境
	②	緑被調査	空中写真判読	樹木被覆地、草地、屋上緑地、農地、(裸地、水面)	「緑被率標準調査マニュアル」(昭和63年、東京都環境保全局)の「調査基準I」(1㎡以上の緑地等を判読)に準拠
みどりの量の調査	③	樹木I調査	空中写真判読・既存資料	位置、樹種、直径など	平成26年度調査の緑被分布図と比較し、樹木被覆地の変化量が約25㎡以上ある箇所を対象に胸高直径20cm以上の樹木を資料調査
	④	樹木II調査(道路植栽)	既存資料に基づく調査	街路樹の樹種、本数 道路植栽の延長・面積など	区道、都道、国道の街路樹・道路植栽等
	⑤	屋上緑化調査	空中写真判読	分布状況・屋上緑化率	屋上緑化できる水平な屋上
	⑥	樹林調査	空中写真判読	分布状況、良好な樹林の詳細、面積、形態、経年変化など	樹冠投影面積300㎡以上の樹林地
	⑦	生け垣調査	現地調査	樹種、延長、所在地	民有地で接道延長20m以上、高さ0.9m以上
	⑧	壁面緑化調査	現地調査	緑化面積、所在地	建物接道部において壁面緑化の規模が3㎡以上
	⑨	水面地調査	空中写真判読	水面面積、所在地、事例収集	自然水面の底地およびプールや人工池
	⑩	公共施設の緑化調査	既存資料に基づく調査	緑被・接道部緑化状況等	公共施設(区立施設)
	⑪	緑視率調査	現地調査	写真撮影した画像内の植生部分の抽出	みどりの拠点、みどりを増やしたい場所、地域特性のある継続的に観測できる交差点等の箇所
	みどりの機能(質)の調査	⑫	環境保全機能調査	既存資料に基づく調査	緑被分布や熱分布等を基に環境保全機能の整理
⑬		生物多様性機能調査	既存資料に基づく調査	街区規模の緑被や動植物の確認状況を整理	生息環境の指標となる種を用い、自然的土地利用率と指標種確認の相関を評価する
⑭		防災機能調査	既存資料に基づく調査	緑被分布や避難地等を基に防災機能の整理	防災に資する植栽分布、水害や火災の抑制、避難地の確保
⑮		レクリエーション機能調査	既存資料に基づく調査	公園や散歩道などを基にレクリエーション機能の整理	身近な遊び場やネットワーク形成について評価する
⑯		景観形成機能調査	既存資料に基づく調査	区民アンケート、景観計画等から景観形成機能の整理	みどりの景観資源や区民の心に残るみどりを評価する
⑰		コミュニティ形成機能調査	既存資料に基づく調査	公園等の利用実績を基にコミュニティ形成機能の整理	団体で公園等を利用するイベントや祭事について評価する
⑱		感性をはぐくむ機能調査	既存資料に基づく調査	みどりの量の調査および⑩～⑯機能を整理	みどりや生物と人との関わりについての行事、事業について評価する

5. 調査の方法

(1) 調査の流れ

本調査は以下の流れで行った。(図 I-1-1)

① デジタルオルソ画像の作成及び基礎調査

区内全域の空中写真を撮影し、撮影した写真から*1デジタルオルソ画像の作成を行った。
また、既存資料等から区の特性或現状を把握した。

② みどりの量の調査

作成したデジタルオルソ画像と基礎調査の結果を基に、区内のみどりの量を把握するための調査(緑被調査、樹木(I・II)調査、樹林調査、屋上緑化調査、生け垣調査、壁面緑化調査、水面地調査、公共施設の緑化調査、緑視率調査)を行い、前回調査(2014(平成26)年度)結果と比較し、経年変化を把握した。

③ みどりの機能(質)の調査

みどりの有するさまざまな機能を環境保全機能、生物多様性機能、防災機能、レクリエーション機能、景観機能、コミュニティ形成機能、感性をはぐくむ機能の7つに区分し、みどりの量の調査結果及び関連資料から、みどりの機能発揮の現状及び今後必要とされるみどりの機能の把握を行った。なお、景観形成機能については、区と区民、東京農業大学で連携して実施した「*2みどりの景観調査」の結果を反映し、生物多様性機能では、区が経年で実施している区民参加型調査の結果を利用した。

④ みどりの現状及び課題の整理

上記の調査結果から区のみどりの現状及び課題を整理した。

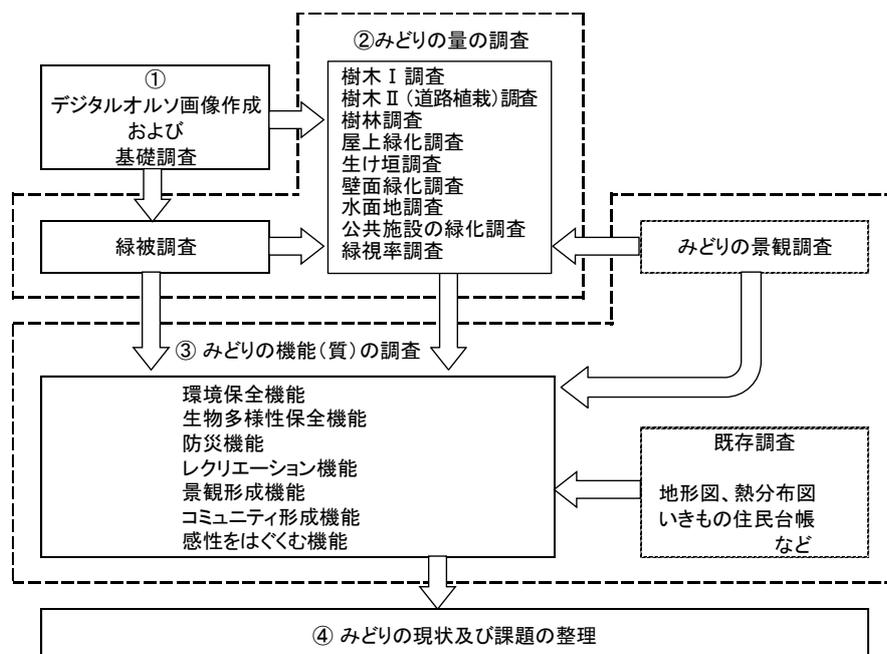


図 I-1-1 調査の流れ

*1 デジタルオルソ画像：資料編 P.165 用語集(3)参照

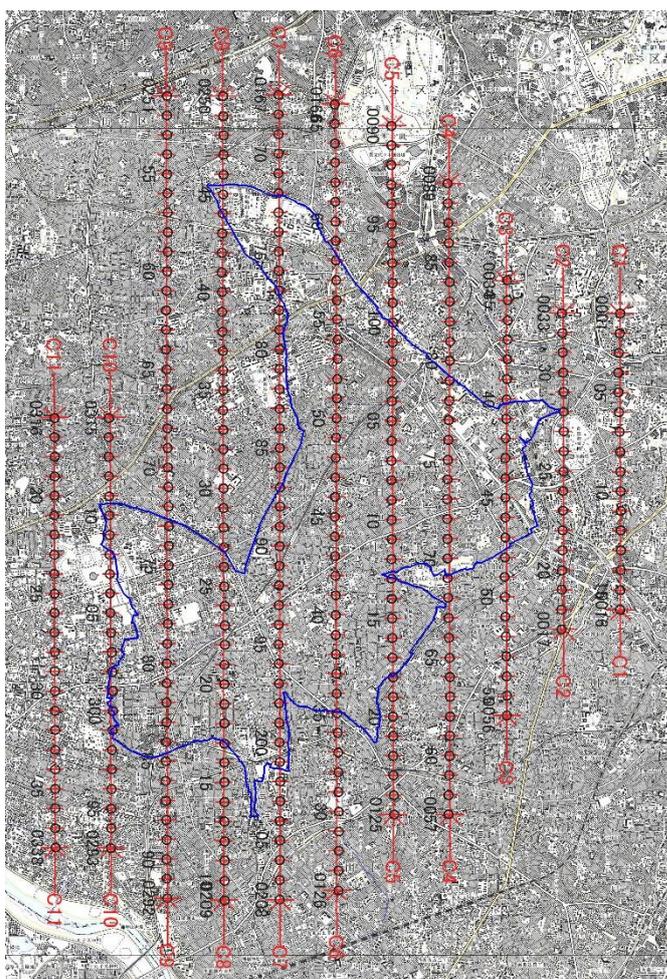
*2 みどりの景観調査：資料編 P.165 用語集(4)参照

(2) 空中写真撮影

空中写真は、表I-1-2、図I-1-2に示すとおり、2023（令和5）年7月10日（月）に撮影した。

表I-1-2 空中写真撮影の諸元

項目	適用
撮影範囲	目黒区全域
撮影日時	令和5年7月10日（月） 9:30～10:40
撮影高度	1,175m
使用カメラ	UltraCam Falcon Prime
使用レンズ	F=70.500mm
画像データ	可視（赤・緑・青）、近赤外
撮影コース	11コース
撮影枚数	338枚
天気・気温	晴れ・25℃



（○印は撮影地点を示す）

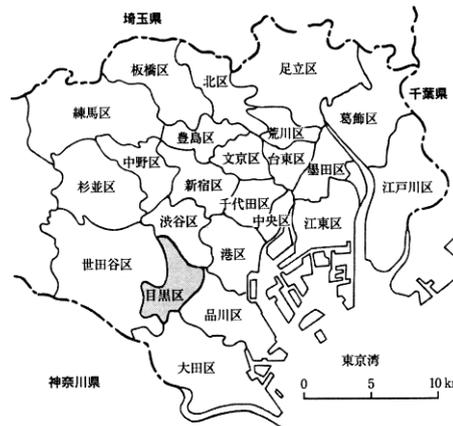
図I-1-2 空中写真撮影コース

I-2 目黒区の概要

1. 概要

本区は武蔵野台地の南東部、東京都23区の南西部に位置し、北は渋谷、東は品川、南は大田、西は世田谷の各区に接している。(図I-2-1)

面積は1,467ha、人口は279,520人(令和6(2024)年1月1日現在、住民基本台帳)である。



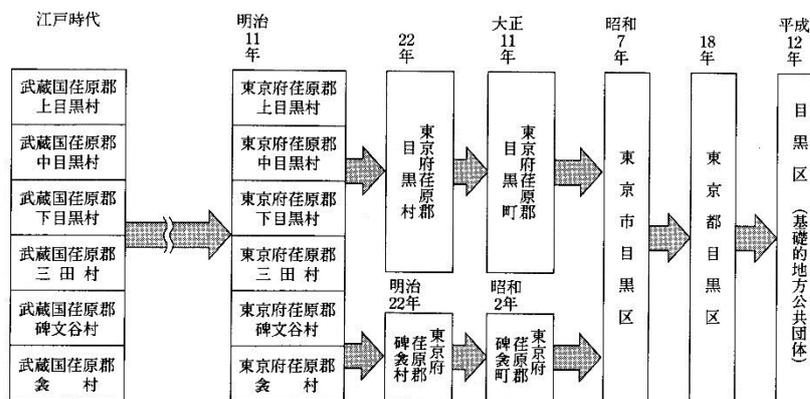
(2022(令和4)年度「区勢要覧」より)

図I-2-1 目黒区の位置

2. 沿革

1590(天正18)年、徳川家康は江戸入府後、江戸経営構想のもとに江戸の町や近郊の村々を整えていった。その頃の目黒地域は荏原郡に属し、三田、上目黒、中目黒、下目黒、碑文谷、衾の六か村に分れていた。1867(慶応3)年の大政奉還により目黒を含む地域は武蔵県となり、1869(明治2)年には品川県に、1871(明治4)年には東京府の管轄となり、1878(明治11)年には荏原郡に属することになった。1889(明治22)年に、それまでの六か村が目黒村、碑衾村の二村に統合された。

1923(大正12)年の関東大震災以降、路線(目蒲線、東横線)の整備を契機として農地が宅地になり住宅地や商工業地域として急激に発展した。1922(大正11)年には目黒村が、1927(昭和2)年には碑衾村がそれぞれ町となり、1932(昭和7)年に合併して東京市目黒区に、1943(昭和18)年に東京都目黒区となった。(図I-2-2)



(2022(令和4)年度「区勢要覧」より)

図I-2-2 目黒区の変遷

3. コミュニティの単位

目黒区は、生活圏域整備計画（1991（平成3）年12月）において、コミュニティの活動や施設の整備等の区域として、住区、地区、全区の三つの圏域を定め、区の長期計画である基本計画、実施計画、これらを補完する各種個別計画の地域別単位として用いて各種施策を実施している。このうち、住区とは、生活圏域整備計画における第一次生活圏域で、原則として区立小学校通学区域を一単位として、全区を22住区に分けている。また地区は、同計画の第二次生活圏域で、複数の住区を集合し、全区を5地区に分けている（図I-2-3）。

なお、町丁目区分としては、目黒区は88町丁目で構成されている。（図I-2-4）



図I-2-3 地区・住区区分図



図I-2-4 町丁目区分図

4. 自然環境

(1) 地形・地質

目黒区の地形は、台地の部分と谷の部分から成り立っている。台地は、海拔高度は30～45mの「高い台地」（「荏原台」および「淀橋台」と呼ばれる台地の一部）と海拔25～32mの「低い台地」（「目黒台」）に分けられる。

地質は、台地の部分では、黒土（表土）の下に、赤土（関東ローム層）が広く分布している。これに対し、目黒川や呑川の谷底平野には、赤土はない。人工的な盛土の下に、固まっていない砂礫や泥（沖積層）がある。本区の地形を図I-2-5に示す。

(2) 気象・気候

目黒区の気候は、東京の温帯に属する。夏は高温多湿で台風が通過することもある一方、冬は乾燥して晴天の日が続く傾向にある。また、6・7月は梅雨となり、雨天が続いて湿気も高くなる。過去10年間の年平均降水量は1,634mmであり、局地的な豪雨が発生する年もあるなど年ごとに変動がみられる。2023（令和5）年の年間降水量は1,268mmである。

気温は実態調査が始まった昭和47年（年平均気温：15.7℃）と比べて上昇傾向にあり、2023（令和5）年の年平均気温は17.6℃である。

（出典：気象庁HP 降水量／アメダス世田谷観測所、気温／アメダス東京観測所）

図I-2-6に本区の地表面温度分布図を示す。目黒川などの水面や公園などまとまった樹木が分布する領域を中心に温度が低くなっている。一方で、水面や樹木が少なく、住宅が密集して風通しの悪い領域などでは温度が高い傾向にある。

(3) 植生

目黒区の植生概観（曾根伸典：昭和59年度版目黒区産動植物目録（目黒区1984）に収録）によれば、区内の主要な植生には、常緑広葉樹林のシラカシ群落やスダジイ群落、夏緑広葉樹林のアカマツ群落、クヌギーコナラ群集、ムクノキーエノキ群集、クスノキ植林やモウソウチク林等の植栽林のほか、路傍雑草群落（ヨモギ群綱）、低層湿原（ヨシ群綱）、流水辺一年生植物群落（タウコギ群綱）、耕作水田雑草群落、人工草地等が認められている。

また、東京都植生報告書によれば目黒区の潜在自然植生域は、全域がヤブツバキクラス域とされ、**①** スダジイーヤブコウジ群集、**②** タブノキーイノデ群集、**③** シラカシ群集、ケヤキ亜群集、**④** シラカシ群集、典型亜群集の4区分が分布している。（図I-2-7）

なお、現存植生の多くは、本来その土地に生育していた自然植生（原生林など）が人間活動の影響によって置き換えられた代償植生（二次林など）であり、現存植生に加えられている人の作用を除いたときに、その土地に成立すると推定される自然植生の姿が潜在自然植生である。目黒区の植生のほとんどは代償植生で、自然植生に近い樹林として、目黒川の崖線や、大学構内、大規模公園内等にわずかに貴重な樹林地として残されている。

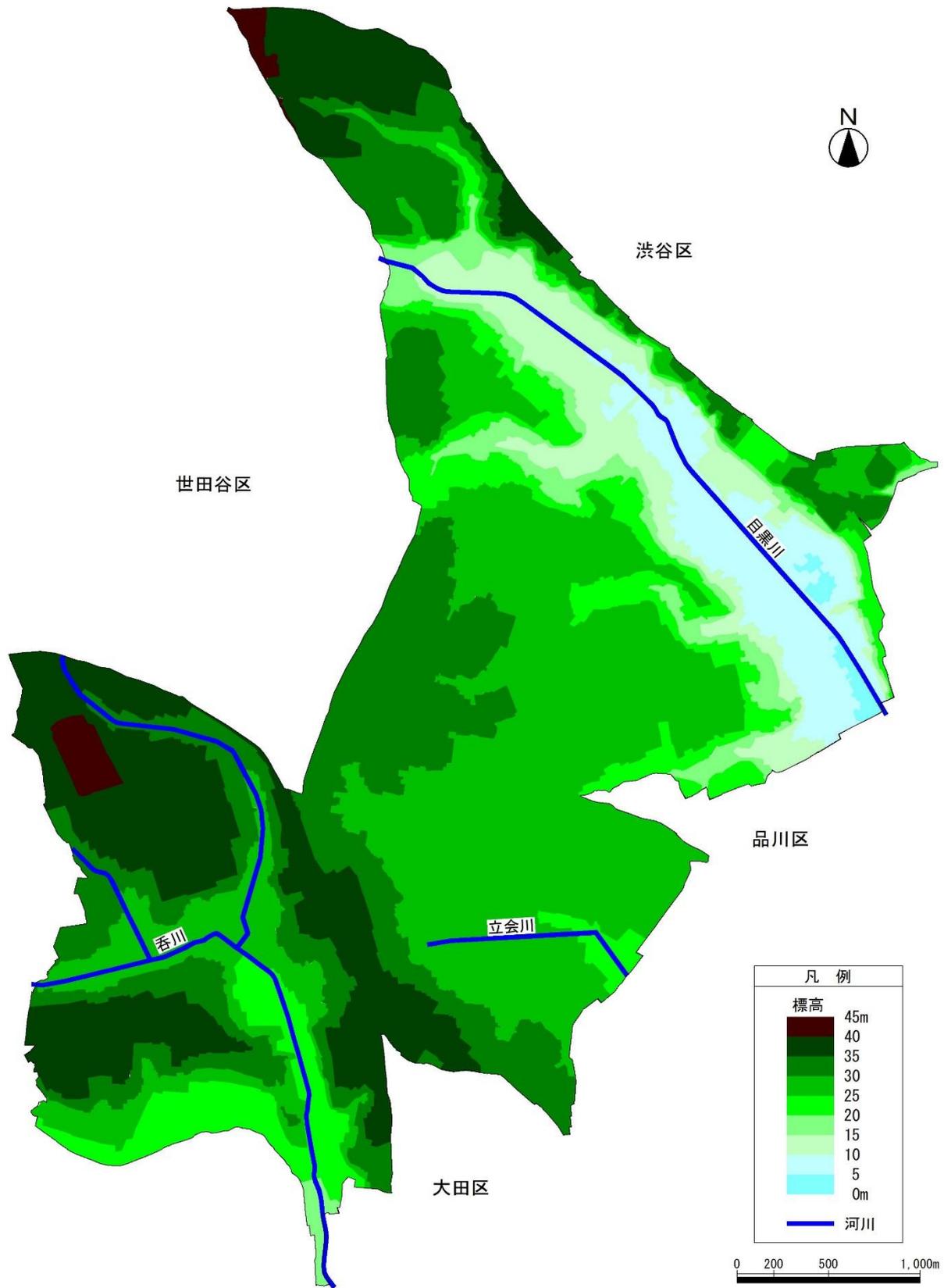


図 I - 2 - 5 目黒区の地形図

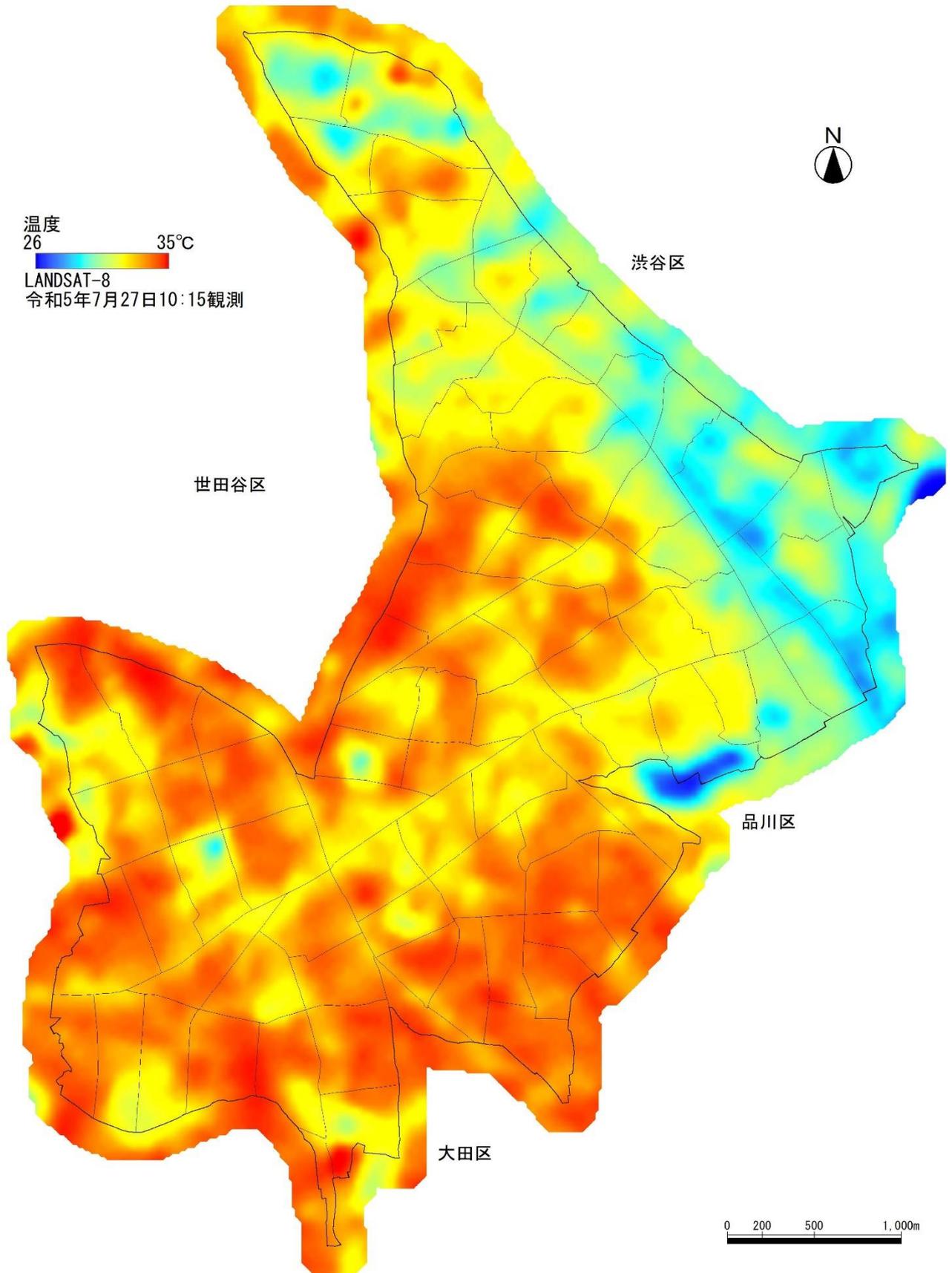
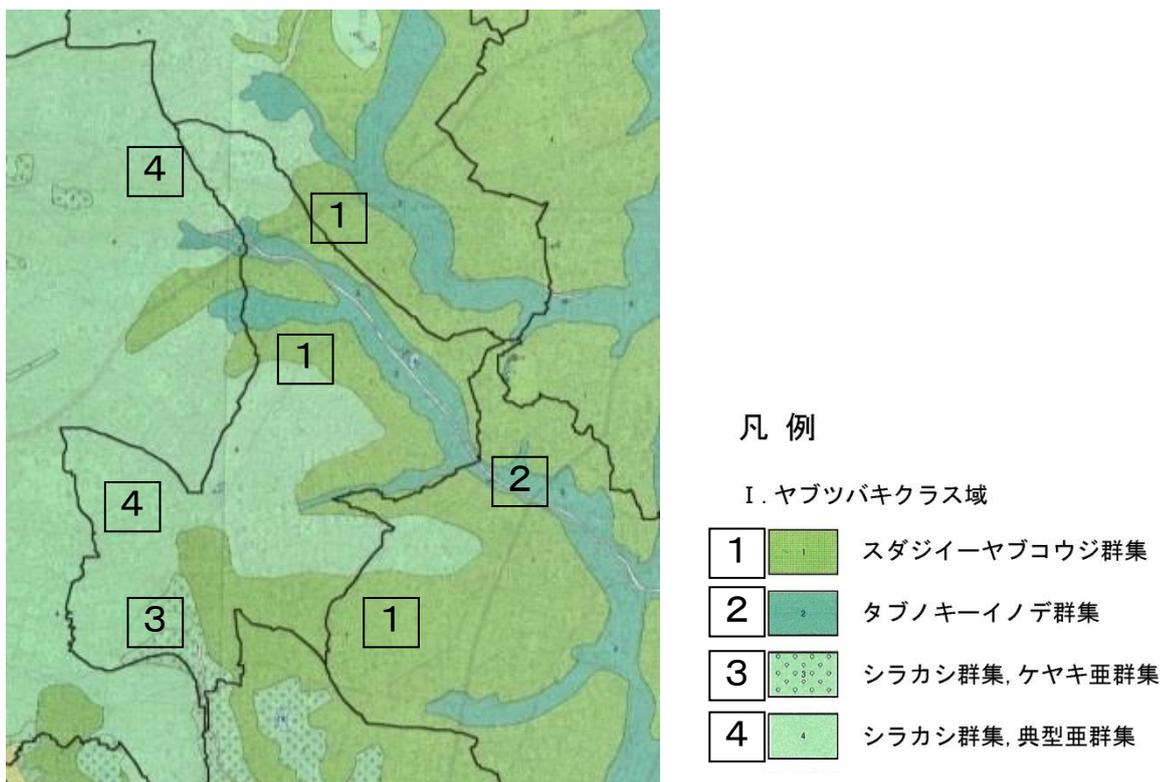


図 I - 2 - 6 目黒区の地表面温度分布図



(「東京都植生調査報告書 (東京都 1987)」東京都環境局HPより)

図 I - 2 - 7 東京都潜在自然植生図

(4) 動植物の生息・生育

目黒区は 1970 年代から身近な自然の調査を継続しており、区内で確認された動植物リストは、1984 (昭和 59) 年に「目黒区産動植物目録」(1984: 目黒区)としてリスト化されている。また、その後みどりの実態調査と同時に行われた「目黒区野鳥生息調査」(1986: 目黒区)、また「自然環境基礎調査」(1997~1999)、「区民による身近な生物調査」(1997~)、「駒場野自然クラブ」(1986~)、「いきもの発見隊」(1997~)等の調査記録データをパソコンシステムに集約し「目黒区いきもの住民台帳」(暫定版 2009: 目黒区) (表 I - 2 - 1) として公表するとともに、「めぐろ いきもの气象台」事業としてこれらのデータの環境学習や地域活動、街づくり等での活用を図っている。

住民参加(自己調査型)で行っている区民による身近な生物調査では、経年変化をとらえるための指標種を設定している。今回の調査では、このうち表 I - 2 - 2 の 18 種を選択し、生物多様性機能調査に活用した。(図 I - 2 - 8、図 I - 2 - 9)

表 I-2-1 目黒区の動植物種数

(2009(平成21)年3月までの「いきもの住民台帳」を集計したもの)

分類	区内確認種類数 注1	絶滅のおそれのある種等注2															特定外来生物※	
		東京都										国						
		絶滅	野生絶滅	I類絶滅危惧類	I A類絶滅危惧類	I B類絶滅危惧類	II類絶滅危惧類	準絶滅危惧類	情報不足	留意種	合計	I A類絶滅危惧類	I B類絶滅危惧類	II類絶滅危惧類	準絶滅危惧類	情報不足		合計
● 植物	1,361	7			1	3	11	7	1		30			3	5		8	2
● きのこ類	258												1			1	2	
● 哺乳類	8									1	1							
● 鳥類	170	3			10	8	19	6	4		50	1	2	6	7	1	17	1
● 爬虫類	12			2		3	2	1	1		9				1	1	2	1
● 両生類	8				2	3		1			6				1		1	1
● 魚類	31			2			1	1		3	7		1	1		1	3	3
● クモ類	118						2				2							
● 昆虫類	990	7		3	7	4	9	16	7	3	56		1		4	1	6	
合計	2,956	17		7	20	21	44	32	13	7	161	1	5	10	18	5	39	8

注1 確認種数は、過去の記録も含んでいる。種には、亜種や品種等も含まれている。

注2 東京都と国(日本)の両方の指定のある種もある。

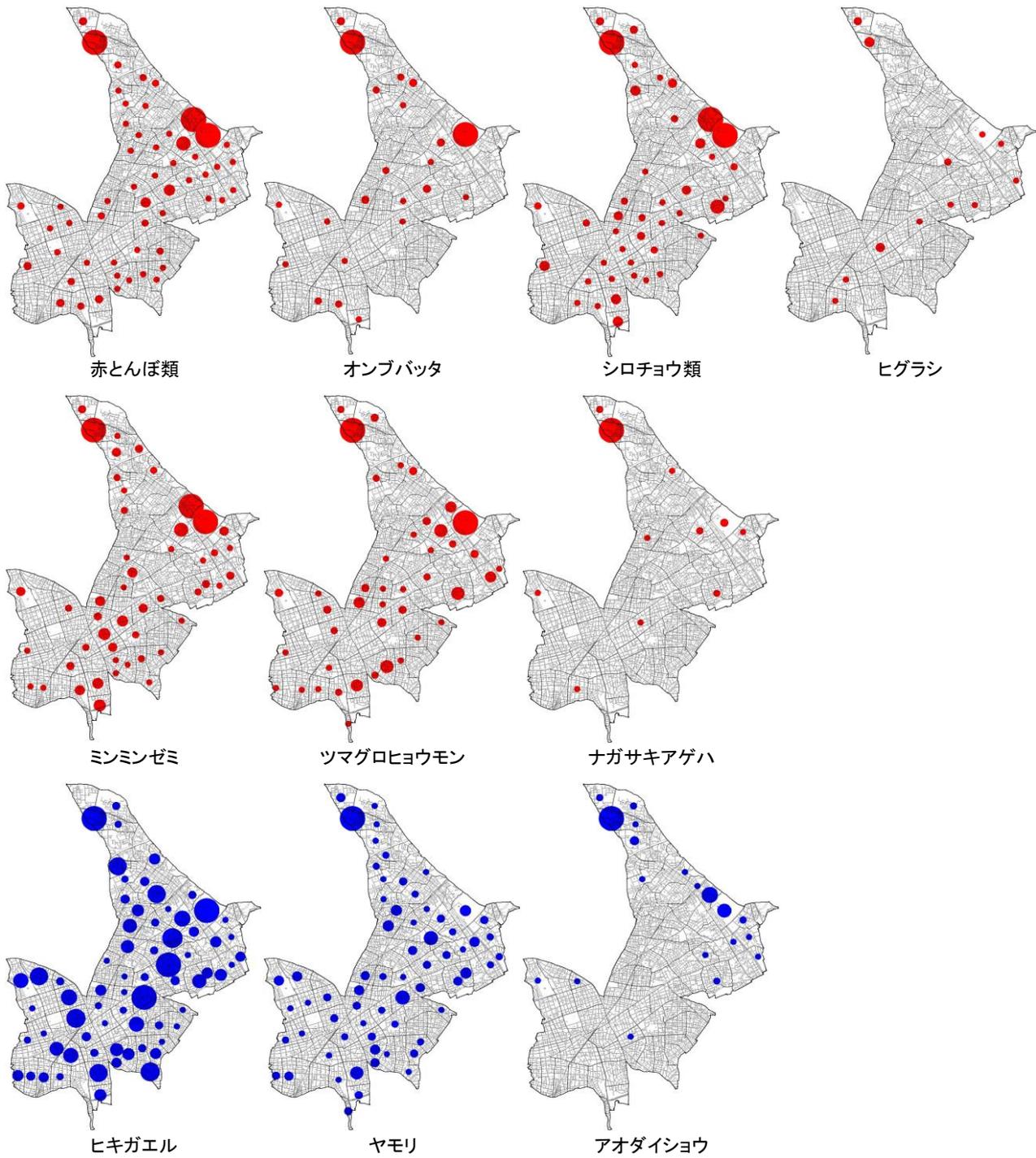
(目黒区生物多様性地域戦略(2014:目黒区)より)

表 I-2-2 目黒区における指標種の例

指標の分類		樹林地、草地、水辺地等の多様な生息環境から抽出	
①希少種	*1環境省・東京都のレッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)	鳥類 両生・爬虫類 昆虫	ヤマガラ、モズ、カワセミ、 ヒキガエル、アオダイショウ、ヤモリ ヒグラシ
②象徴種	*2いきもの80選(区民投票により選ばれた身近な生物:2013年実施)	鳥類 昆虫	シジュウカラ、コゲラ、ツバメ 赤とんぼ類(アキアカネ等)、ミンミンゼミ、 オンブバッタ、シロチョウ類
③アンブレラ種	捕食者	鳥類	オオタカ、ツミ、ツバメ
④中枢種	生態系の中で他の構成種に個体数や分布への影響を与える種として近年分布が拡大している種	昆虫	ツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハ

*1 環境省・東京都のレッドリスト：資料編 P.165 用語集(5)参照

*2 いきもの80選：資料編 P.165 用語集(6)参照



注) 町丁目単位で観測数を円で表示

(2013～2023年「目黒区いきもの住民台帳」より)

図 I-2-8 指標種の観察記録地点分布図 (1)



注) 町丁目単位で観測数を円で表示

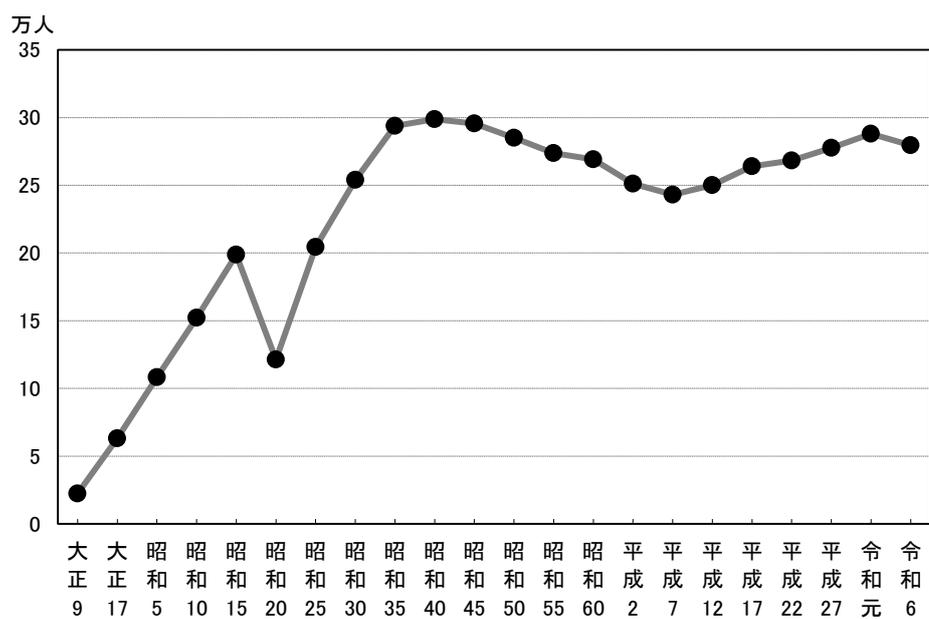
(2013～2023年「目黒区いきもの住民台帳」より)

図 I - 2 - 9 指標種の観察記録地点分布図 (2)

5. 社会環境

(1) 人口

本区の人口は、2024（令和6）年1月1日現在の住民基本台帳では、159,667世帯、279,520人、人口密度は1k㎡当たり19,054人である。戦後は区内の人口は増加の一途をたどってきたが、1965（昭和40）年頃に30万人近くに達したのをピークに減少に転じた。その後、減少傾向が続いていたが、1995（平成7）年には241,676人となったのを境に、その後は近年（2024令和6）年）まで微増傾向が続いている。（図I-2-10）



（国勢調査データ、区勢要覧、区統計資料をもとに作成）

図I-2-10 目黒区の人口の推移

(2) 土地利用

目黒区の土地利用区別面積は、低層・中高層建築群の住居系民有地の占める割合が高く、低層建築群は区面積の37.2%、中高層建築群は27.5%と全区面積の64.7%に達している。

前回（2014（平成26）年度）調査では、住居系民有地の割合は64.2%で、このうち低層建築群は37.0%、中高層建築群が27.2%だったことから、この間、住居系民有地はほとんど変動していない。

(3) 公園緑地の整備状況

目黒区の公園緑地の整備状況（2023（令和5）年4月1日現在）について表I-2-3に示す。

区立の公園等が122箇所、緑道が10箇所、都立公園が2箇所となっており、これらの整備面積は48.9haで、区民一人当たりの公園面積は1.7㎡である。

一人当たり公園面積（2022（令和4）年「区勢要覧」より）は、23区中20番前後と低く、公園の絶対量は依然不足している。また、公園の地域的偏在も課題となっている。

表I-2-3 公園緑地の整備状況

公園等の種別	整備数(箇所)	面積(ha)	備考
区立公園	73	30.6	
区立緑道	10	4.5	延長8,976m
都立公園	2	11.4	公園面積の内目黒区内分
区立児童遊園	49	2.4	
合計	134	48.9	
(広場・遊び場等)※	19	1.3	

※ 区民一人当たり公園面積算定対象外

(4) 目黒区の農地と生産緑地

目黒区の農地は、2020（令和2）年時点で農家数8件(耕地面積 公表なし)となっており、1980（昭和55）年当時では41件（8.7ha）であり、減少を続けている。

生産緑地は、12地区(面積1.9ha)であり、1991（平成3）年4月の改定時には26箇所（4.5ha）と増えたが、近年は減少傾向にある。（表I-2-4）

表I-2-4 農地・生産緑地の推移

農地・生産緑地		昭和55年度	昭和60年度	平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
農地	農家数(件)	41	38	26	25	17	14	13	12	8
	耕地面積(ha)	8.7	8.0	7.2	6.9	2.4	2.3	-	-	-
生産緑地	地区(箇所)	10	10	11	26	23	21	17	17	12
	面積(ha)	3.2	3.2	3.2	4.5	3.4	3.2	2.6	2.6	1.9

（2022（令和4）年度「区勢要覧」より）

